古今秀句　ほ　夏

ほ

新後拾一　しられしな露ばかりとも下荻の　ほにいでずともすぐるおもひは　藤原基綱

古今秋上　今よりはうへてだに見じ花すすき　ほにいづる秋はわびしかりけり　平貞文

続後撰秋中　引人もなしとしらずや[illegible]花すすき　ほにいづるあき[illegible]　統部成経

新拾雑上　人しれぬ荻の下葉のさやかにも　ほにいづるあだなる[illegible]　中務

続後拾一　露深くおもひし物をしのすすき　ほにいでてまつらん家もひとかた　平泰時朝臣

拾玉集三　[illegible]すすきの夕風の　ほにいでぬ荻にきくをとふ[illegible]

新続古今一　しのぶ秋のさかりは露かりも　ほにいでぬ薄にみせよや　津守国助

新勅撰一　[illegible]のなの薄　ほにいでぬとひもよりける　藤原仲実朝臣

同一　山陰にはつ[illegible]みだれて　ほにいでぬひをみる[illegible]　躬恒

新古今　色そむる[illegible]の荻もすれ　ほにいでぬ秋ぞしのぶ　式子内親王

拾玉集二　[illegible]の思に秋くれて　ほにいでやらぬ[illegible]

風雅秋中　[illegible]秋の田の　ほにいでて[illegible]　貫之

続千秋上　白雲の[illegible]花すすき　ほにいでて[illegible]　九条右大臣

新続古今三　待人は[illegible]花すすきの　ほにいでて[illegible]　後京極太政大臣

壬生二承上　[illegible]　ほにいでて鳴秋は[illegible]

拾遺自外上　みる人は[illegible]の秋の[illegible]　ほにいでて[illegible]

新千恋四　ほのかなるまほうきつゝ花ぞ散る　ほのかにもなくすさもきゝてけり　権中納言定頼
古今秋上　秋の野の草のたもとか花すゝき　ほにいでゝまねく袖と見ゆらん　在原むねやな
同恋五　花すゝき我こそしたに思ひしか　ほにいでゝ人にむすばれにけり　藤原なかひらの朝臣
新続古恋四　年月もあはれいつまで忍ぶらん　ほにいでゝ人にこひん物かは　大江雅言
玉葉恋四　秋風の稲葉もそよといふなれば　ほにいでゝ人をうらみつるかな　貫之
新千恋四　さりともとたのむかひなく身をあきの　ほにいでゝうらみやすらん　弁内侍
新勅恋一　しのぶるもあらはれにけり山のはの　ほにいでゝすもしらぬ秋の夕暮　よみ人しらず
続古恋一　ふるさとの山田のいなや人めもる　ほにいでゝこひわたるかな　基俊
新葉秋上　風吹けば露もたまらぬ篠すゝき　ほのかにも秋はきにけり　躬恒
新千恋二　いつの原ほどのよそに行く舟の　ほのかに見えて消ぬる月　前内大臣
続古羇旅　こやとこふ家を出でゝ旅衣　ほのかに見えしかげの月　源頼春
続拾遺恋三　あひみてもありぬべしやとおもひしに　ほのぼのとたのめし君が　相模
新古雑別　思ひ出るよしもなき身の月をのみ　ほのぼのとあかしの浦の　よみ人しらず
新葉春下　又やみん花の都のよそながら　ほのぼのと立つ霞かな　後三条院
拾遺恋上　あかなくにまだきも月のかくるゝか　ほのめかす人もあれば　中務卿宗良親王
新続古恋三　まけぬるも知らでひとめを　ほのめかす月にぞかはる　後照念院関白
拾遺雑恋　かへりつるひとのみちをも　ほのかにも見えねどこそは　[illegible]

拾遺恋四　あけぬとてかへるみちには　ほとゝぎす今も鳴かなむ　[illegible]
玉葉雑四　あふみにもありといふなる　ほとゝぎすなくやさ月の　権中納言定頼
後撰夏　五月雨のまだはれやらぬ　ほとゝぎす夜深き空に　大春日師範
玉葉夏　五月雨の雲のまよりぞ　ほとゝぎすなくや五月の　躬恒
同夏　五月山ほの見ゆる木の下闇に　ほとゝぎす我かたらはん　素性法師
拾玉集二　夜の月光を秋にまがへつゝ　ほとゝぎす鳴く音ぞ聞く　[illegible]
同二　かへるさの道のほとりに　ほとゝぎすたれにかたらん　西行
新拾夏　月を見てわが手にとりて　ほとゝぎす君が宿にぞ　源衛宗朝臣
金葉別　待つ人のあかず別るゝ　ほとゝぎすいかなる声を　後京極摂政
玉葉雑二　名もしらぬ八重の汐路に　ほとゝぎす鳴きて行くらん　右近中将為盛
新続古羇旅　里はあれどとこそ行かめ　ほとゝぎす待つ夜の数を　慶範法師
続拾遺別　雅なる心ぞみえし　ほとゝぎす鳴く音ぞかへる　藤原信実朝臣
新続古恋下　まだしらぬ秋の夕べを　ほとゝぎす鳴きて過ぎぬる　寂蓮法師
新葉秋下　書きつめし秋の夕暮　ほとゝぎす尋ねてしかな　忠綱
後撰雑冬　今はとてわかるゝ袖の　ほとゝぎすうきねの床の　従三位盛親
風雅冬　夕暮は身にしむ秋の　ほとゝぎすなくやこの夜の　[illegible]
拾遺雑上　ほとゝぎす人まつ山に　ほとゝぎすくらきにまよふ　[illegible]
山家集上　とまらのこと花人を　ほとゝぎす鳴くやさ月の　[illegible]

新千載恋四　夢にしもあひ見しよりはかなしきは　ほとゝぎすなくねのつらきあかつきの空　小式部内侍

新拾遺秋上　おもひきや秋のねざめをかさねつゝ　ほとゝぎすなく夜の床の秋風　御製

拾遺愚草中　さびしさやもろこしぬ声のみなれ　ほとゝぎす猶この床の枕のまくら

同中　なつかしの山さとびとはねもやすく　ほとゝぎすなくとはいかに待やらん

拾遺愚草員外下　風わたるやまの下陰露ふかみ　ほとゝぎすなく世をかさね山の里

新千載哀傷　おもひいづる人のなき世をしのびつゝ　ほとゝぎすなく世のやみのうき　権中納言定家

新千載秋上　海士人の浦の夜床の苫ひさし　ほとゝぎすなくこゑのかよふ月の夜　従二位行家

新拾遺恋二　伊勢の海の志ほひ世にうき身のうらみ　ほとゝぎすなくらんさはの月　寂蓮法師

新後拾遺恋三　うつゝまでなぐさむ事もなきものを　ほとゝぎすなくねのゆめの枕なりけり　従三位雅家

新千載釈教　ほとけたのむ人のこゝろにかけてみよ　ほとけはすこしのみちと光なき　躍堂上人

後撰雑三　おもひ出の身のうき世にすみかねて　ほとけのみちをたのむ身そうき　慈延法師

月清集下　たのむ世もすぎし心のなぐさめに　ほとけはまつ金のみちなり

拾玉集七　うき人の身になるこのよをたのむ　ほとけはまつ世の光なりけり

同四　ひとりあかすいつかはとけんわかれぬる　ほとけはまつほとけのひかりなりけり

拾遺員外上　ちりひとつひとつ秋萩の一えだも　ほとけのこゝろにむすぶたまかな

拾玉集七　性かたき人のこゝろをなぐさめて　ほとけはまつたのむ心の月

続後拾遺釈教　かくれなき人のこゝろにしらせても　ほとけはまつたのむみちぞかし　選子内親王

拾玉集一　梅の花ちりぬる色も惜しけれ　ほとけはまつちよのひかりを

同四　あはれ世のさだめなきをもしらずして　ほとけはやがてむかへにぞくる

同一　あはれとふ心のはてもしらぬまに　ほとけのをしへあはれなりけり

同四　よしの山花のさかりをまちかねて　ほとけのみちぞたふときものを

新葉釈教　山ふかくこゝろにいりてすみなれて　ほとけのみちにまよふ人かな　中務卿宗良親王

続古釈教　多くのひとのこゝろにかなふ道　ほとけのみちのまよひをもしれ　僧都源信

長秋詠藻下　これ法のみちにいれてをしへける　ほとけのみちをまよふなるらん

拾玉集七　春の田のうゑしも今は世のならひ　ほとけのみちに思ひいれつゝ

同一　みな人のこゝろのたねのたねとして　ほとけのこゝろにかへるなりけり

新続古雑　東路の加茂のみやしろまつりにも　ほとけのみちにいるぞうれしき　前大僧正慈鎮

拾玉集六　何ごともこゝろにまかせておもひそめ　ほとけのみちのうれしさぞしる

玉葉釈教　おのづからたれもこのよにすみながら　ほとけのみちのつねにてらす　花山院御製

新続古恋上　なにごとにつけてもおもふ身のうさを　ほとゝぎすなくね久しき　藤原信実朝臣

山家集上　ほとゝぎすあはれをしらぬ人もあらじ　ほとりの井の庭の月かな

続拾遺羇旅　もしほやくあまのすみかをたづねつゝ　ほのかにみえし松の木の下　藤原国行

続後撰恋一　君をおもふ心のうちはいはずとも　ほのかにもみゆるあはれなれ　定家

同一　あすしらぬ世をいとひつゝすむ山の　ほのぼのとあかす秋のよの月　平定文

続古秋下　さ夜ふけてすむ月かげにたえずなく　ほかにはあらぬ山の秋の夜　衣笠前内大臣

風雅雑下　世をいとふ心の山のおくふかく　ほのかにきこゆるみねの松風　権僧正公朝

玉葉雑三　小倉山[illegible]　ほとゝぎす[illegible]　右大臣
続拾遺夏上　[illegible]宿に咲[illegible]花　ほとゝきす[illegible]　源道洪
玉葉夏　山里は[illegible]　ほとゝぎす[illegible]　権大納言通重
新千雑中　[illegible]世[illegible]　ほとゝぎす[illegible]　二条院親王[illegible]
新続古今夏下　[illegible]の山[illegible]　ほとゝぎす[illegible]花の[illegible]　前参議[illegible]
新後拾同　花さきし[illegible]九重の　ほとゝぎす[illegible]　橘徳[illegible]
拾遺哀傷　[illegible]　ほとゝきす[illegible]　人まろ
続後撰夏　白妙の[illegible]　ほとゝぎす[illegible]　天暦御製
風雅雑上　[illegible]花[illegible]　ほとゝきす[illegible]山里　権僧正[illegible]
新後古今春下　桜[illegible]宿[illegible]　ほとゝきす[illegible]の里　[illegible]
拾玉集六　[illegible]秋の[illegible]　ほとゝきす[illegible]　[illegible]
同七　[illegible]　ほとゝぎす[illegible]秋風[illegible]
古今夏　郭公[illegible]山ひとこゑ　ほとゝきす[illegible]　[illegible]
新千夏　み[illegible]　ほとゝぎす[illegible]　権僧正[illegible]
風雅春中　宿[illegible]　ほとゝきす[illegible]初[illegible]　前大納言[illegible]
拾玉集五　郭公[illegible]　ほとゝぎす[illegible]
同三　[illegible]　ほとゝぎす[illegible]住吉[illegible]
玉葉夏　[illegible]　ほとゝぎす[illegible]

類句

新続古今　[illegible]夕附日　をり[illegible]　二条院親王[illegible]
風雅雑中　山里は外面の[illegible]　をり[illegible]　前大僧正[illegible]
新後古今雑　袖[illegible]より　をり[illegible]
壬生二条中　庭の面に[illegible]水も岩こそ　をり[illegible]
拾玉集三　み[illegible]月の　をり[illegible]
新後古今神祇　[illegible]　をり[illegible]秋の[illegible]　従三位[illegible]
新拾雑上　谷川の[illegible]　をり[illegible]の月　菅原孝標女
千載夏　岩[illegible]宿[illegible]　をり[illegible]　俊恵法師
風雅神祇　[illegible]の玉[illegible]　をり[illegible]秋の[illegible]月　前左大臣
拾遺恋五　[illegible]　をり[illegible]山
古今雑下　[illegible]　をり[illegible]　[illegible]
新千夏　山里は[illegible]　をり[illegible]　従三位[illegible]左大臣
拾玉集三　[illegible]　をり[illegible]
壬生二条上　吹風[illegible]梅[illegible]　をり[illegible]
古今春上　[illegible]山里の[illegible]　をり[illegible]　伊勢
新葉春下　[illegible]桜　をり[illegible]　右近大将道綱母
後拾遺春上　[illegible]の[illegible]　をり[illegible]　清原元輔
拾玉集二　庭竈の[illegible]　をり[illegible]

類句

拾遺愚草上　しら〳〵とよもあけの世との松風　ほの〳〵と明ゆく空の　前関白

新千五百又　あきのよの久しくなりてあはぬ夜の　ほのゆふ月にかよふ風そ吹　権正静観

続後撰冬　きえとそてかへりてみれはなにの山　ほのかにみえぬ梅ゆく人

壬生二集中　里人もみなみえてそ打ちかふ　ほのほのと立そ玉の井の水

月清集上　大淀の浦葉の雲に風そそ　ほのかにかけそ詠むる

同下　秋ならてしらぬ山のはの秋のよ　ほの〳〵と霞に眺めまし

玉葉恋四　夢路にも思ひあらぬ身の袖を　ほのかにも見えつるまゝの　右大納言隆房

風雅哀　旅ねしてあはれ山へとさうしろ　ほのかにもたえぬる夢の　皇太后宮大夫俊成

拾遺員外上　うらかなる人の秋の風とては　ほのかにも夕暮の空

続後撰夜　菜摘むとかさぬるすそに沼水は　ほのかにも夕暮ぬれ　従大納言師光

月清集上　古郷の夕暮はゆかりのむつまして　ほのかにも夕暮の空

拾玉集二　大井川里てそ波よりひぬれ　ほのかにも夕暮の空

壬生二集上　これ外よりのかなし灯影かゝく　ほのかに入庭はもとそ

続千五百一　ゆくへも人はまちぬるひとそ　ほのかにけふみゆる　信実朝臣

続拾遺恋四　ほのめくも心あさくありもせぬ　ほのかにも見えぬひ　法眼慶融

壬生二集上　わかやとの一村とはうすき霧や　ほのかにもみゆる庭の

拾遺物名　花の色のひとしくみえてゆくみつる　ほのかにもうちそそわかる　すけみ

新拾遺雑上　夜の江のかすみの里の夕くれは　ほのかにも海士の釣する　常…

拾玉集七　秋乃霧にかくれて見え隣の船　ほのかにも見えぬ海のあまの舟　源家長朝臣

続後撰恋四　ちかひにしひとはたのみこそあはれ　ほのかにもせすもかよふ夢路

狭衣三　いかにすとも見るかたもなく恋しきや　ほのかにもみえしよりも思ひそめし

若菜上　そむく世のうしろめてたくはうしろ　ほのかにも見えてそけふまで

玉葉雑下　ほしとも思ひもきみにたちたひに　ほのかにも見えしもそ山のは　惠慶法師

続拾遺恋　さもあらはあれねまとゝのかなしや　ほのかにもつけてもわすれられ　赤染衛門

新千雑　思ひの河をひの中山とゆくとも　ほのかにもあはれるはせま　三条右大臣

古今大哥　まつねこそうきのゆふ山おもひをそ　ほのかにも川のそらのさやか

金葉雑上　かくてはるゝそれゆききぬ山さとの　ほのかにも川かんかそふ小　三条

新古秋上　風にちる山風の庭とりも月や　ほのかにもうちおもひはるの　前太政大臣

続拾秋下　山とほき門田乃末に霧はれて　ほのかにもむしのこゑの月　後京極摂政太政大臣

玉葉秋下　峯ちかき伏見の小野の夕ひかりき　ほのかにもいらいらし風の　前右京大夫為教

続後撰雑上　夢ならも終しかきに秋の田の　ほのかにも見えぬる稲妻　大納言通方

拾玉集六　有明の月のゆかりのふかき水にて　ほのかに池のすみて鳴もの

新後撰秋下　小山田乃いな葉かりほのかに月さして　ほのかにもけるの世の霧かゝるて

新勅撰　まちかねて旅人の思ひいまかとくゝ　ほのかにもまそや立帰らん　式子内親王

新拾遺句　昔のくれ風にそ落葉ちる時よ　ほのかにもくらる山乃月　後鳥羽院御製

月清集下　しつかに聞なみとしろむ雲の衣まよ　ほのかにもかくやとまし

拾遺愚草上　夏かりの好んの子の古枝をかけハ　ほのぼのかすむ夕かけの哉

新古雑上　入方て社おもむ月の空すひ　ほのぼのわくる山のはそうき　参議保季朝臣

夕顔　よりてこそそれかとも見めたそかれに　ほのぼの見つる花の夕かほ

新古夏　白露の情おきける言の葉や　ほのぼの見えし夕かほの花　前太政大臣

風雅秋中　雲かゝる秋の日影の山のはに　ほのぼのみゆるかれ野つゝき　従三位為信

玉葉雑二　峰にあるハ(?)まれにや(?)志ゐては　ほのかに見ゆる灯の末　従二位為子

拾遺恋二　志られはやゆめのほとにもせうしろまの　ほのかにつとこそ見えしもゆる　よみ人しらず

後拾雑　鈴かけて霞のひまの山のはに　ほのかにかゝる月の影かな　太宰大弐重家

後千恋二　忍ふれと袖のうへなるしつくかな　ほのかにかよふ波の音もかれ　後京極摂政前太政大臣

新後古恋一　志られぬを浦によるこの　ほのかにもいつかはきく(?)をかりそめ　今上御製

拾遺愚草上　わたの原つきむすふ袖を　ほのかにすむ月の影かな

月清集下　岩戸あけし神代も今はかすむらん　ほのかに霞むそれかとも

後古恋三　すきまもるおもかけに見えし　ほのかにみえしや山のはの月　前式部卿宗尊

新古恋一　をひせにせんの志らぬを　ほのかにかよふ年のこそ　権中納言師時

新後拾恋三　秋風に音こそされともすゝき　ほのかにそ見ぬ君かな　躬恒

山家集上　沖かけて八重の潮ちを行舟ハ　ほのかにそきく初雁の声

新拾恋下　夢にても見えもやすると花のうへに　ほのかに見えし月のかけかな　法皇御製

金葉夏　大井川いせきの水の音すなり　ほのかにさぬる夏の夜の　中納言

壬生二品上　夕されの雛の雪の声も　ほのかにするぬ庭の上風

新千羇旅　追風に山とをさく漕出て　ほのかになりぬ松の嵐に　源邦長

千載夏　ゆふ月夜入る山の末にくれぬ　ほのかにすゝみ雲のかゝれ(?)　権大納言実家

後後拾秋上　たつ霞のとをきのをきて尾花　ほのかにひく峰のさそ(?)の　後一条院御製

壬生二品上　年くれてわかれし月影に　ほのかに残るその峰の雪

後千秋下　有明の月にまれの風も聞すら　ほのかにのこる秋の夕暮　平時繁

後古恋一　秋の野に招きし薄の庭に　ほのかにのこる夜半のなん　鎌倉右大臣

壬生二品上　風さむみ水の上の川竹に　ほのかにふかき夜半の志る

千載恋一　かきくもり雨も志る袖　ほのかにまよふ宿のしるし　式子内親王

洞院秋　山城のとはた(?)の面を見わたせは　ほのかにけさそ秋風ハ吹　曽禰好忠

後拾遺雑三　世中をなにゝたとへん秋の田を　ほのかにてらす宵の稲妻　源順

山家集下　ひさかたの(?)山の四方ひらく　ほのかにてらす月のかけ

拾遺愚草員外上　都より山の端出る月の　ほのかにてすみし月の空

新後古秋下　住吉の松の下枝に花すすき　ほのかにきく棹鹿の声　後入道前

新千恋四　待てと思ひやりてうらひさの　ほのかにききし声そきこゆ　よみ人しらず

新拾秋下　行人はつねにつきせぬ雁のねは　ほのかにきこゆ初雁の声　信明朝臣

後古雑下　明ぬるか河瀬の波のあらはれて　ほのかにみゆる宇治の山　前大納言為家

拾遺恋二　夏草のしけみにまじるあやめ草　ほのかに見えし人のあさ　よみ人しらず

類句 ほ

続古今恋五 まちわびしよはのまくらにまよひてそ ほのかにみえし月のおもかけ 前中納言定家
新千恋四 天の河ひとへの雲のなかにたに ほのかにみえし星のあふせは 兼盛
続古今冬 世の人はさえし霜夜のふりしきて ほのかに見えし里のわかなを 賀茂季保
拾遺恋二 よそにてもありにし物を花すゝき ほのかにみてそ人はこひしき よみ人しらず
続拾遺恋四 忘れしよ露のなさけの面影の ほのかにみてし君かおもかけ 曽祢好忠
新古今恋一 かすか野の雪まをわけて生いてくる ほのかにみてもしらぬへき 権中納言敦忠
続後拾遺恋三 忘れしとむすひし野中の清水こそ ほのかにみえしあふせなりけれ 後嵯峨太政大臣
続拾遺神祇 住吉の浜松かえの縁より ほのかにあらはれそめて 前左近中将
新葉雑中 和田の原雲と浪とのへたてゝも ほのかにあらはるゝ淡路島山 権僧正公順
新古今釈教 さとりえてなをさりならぬ秋の夜の ほのかにあらはれぬ秋の夕暮 よみ人しらず
同秋上 小倉山麓の野への花すゝき ほのかにみゆる秋の夕暮 権大納言実家
千載秋上 秋の来る夜の心をまつとしも ほのかにみゆる秋のゆふくれ 前大納言為氏
続拾遺春下 春の夜の霞のまよりやまのはを ほのかにみせてかすむ月影
月清集上 いつもかく内のけしきをしら露の ほのかにみえて夕月の影
山家集上 暁やぬるまもなしの山の雲 ほのかに残る花の白雲
後撰秋上 秋風は草葉そよきてふく夕を ほのかにきく人のかなしさ
拾遺恋又 志賀の浦のつれなき人にまかせつゝ ほのかにみしよりおもひそめて よみ人しらず
新古雑上 ほとゝきすなきつる山の月かけに ほのかにひとりさそふなりけれ 坂上郎女
式部卿親王

花散里 かちよりかへる人もあらねは ほのかにひとり宿のまつ風 藤原顕輔
千載恋一 藻しほ焼浦のあまのかすならぬ ほのかにしもこそあらめ
拾遺哀上 夕月やいるさの山のかけに ほのかにみえて月のいるらん 平経章朝臣
同下 ありあけの月にひとりやさむしろに ほのかにきゝし秋風の声
後拾遺恋二 あらたまの冬野の霜にたつ鴫の ほのめく風につけてそふれ 菅原孝標朝臣女
老木 秋ならぬ人の心をきこえても ほのめくよりもまつなる梅 権中納言長方
続古哀傷 何事もかひなき身とぞ思ひしに ほのめくらへのむかしの跡 藤原基俊
千載夜 人をのみまつとはなしにたちかへる ほのめかすかた月影
金葉秋 風吹八枝もとをゝにおく露の ほのめく雲にうつる月影
拾遺員外 あれはなりいつちへともしれぬ秋の夜に ほのめく雲にむかふまた
花宴 あつまちのさやの中山中々に ほのかにみえし月の影かな 伏見院御製
新千恋一 しられしなおもひのいろをしのふれは ほのかにあるを神まつるとも
新古春下 春ふかく尋いるさの山のはに ほのかに見し雲の色そのこれる 権中納言公経
月清集上 みるまゝにかすみへたつる山の端に ほのかにのこる夜半の鐘の音 源頼家朝臣
拾玉集一 さくら花ちりかひくもる春の夜の ほのかにさえてそらもかすめる
詞花雑上 春霞たちかくせとも桜花 ほのかにまよふ人のこゝろか 権中納言匡房
続拾恋三 何ゆゑかおもひそめけむかひもなく ほのかにもみてしをのみかこつ
山家集上 花散らぬ人のためにもあらはれて ほのかにしるき花の夕暮

壬生二承上　[illegible]花落　ほのみし[illegible]

新拾恋二　[illegible]　ほの[illegible]　徽安門院一条

続後撰恋一　[illegible]　ほのかにも人の[illegible]　権中納言俊忠

拾玉集三　[illegible]　ほの[illegible]

月清集上　[illegible]　ほの[illegible]

金葉秋　[illegible]　ほころびわたる[illegible]　神祇伯顕仲

山家集上　[illegible]　ほころびや[illegible]蘭[illegible]

拾玉集四　[illegible]　ほさ[illegible]

新拾恋四　[illegible]　ほさぬ[illegible]　藤原為重

拾遺恋上　袖[illegible]　ほさぬ[illegible]

続千載羇旅　[illegible]　ほさぬ[illegible]　惟宗忠景

続後拾遺羇旅　[illegible]　ほさぬ[illegible]　源時清

続古今哀傷　[illegible]　ほさぬ[illegible]秋の[illegible]　惟宗忠景

続千恋一　[illegible]　ほさぬ[illegible]　正三位為実

新続古恋五　[illegible]　ほさぬ[illegible]　冬良[illegible]

新拾雑春　日数のみ[illegible]　ほさ[illegible]　前大僧正[illegible]

同二　[illegible]　ほさで[illegible]　皇太后宮[illegible]

新拾恋二　[illegible]　ほさで[illegible]　源[illegible]

新続古羇旅　[illegible]山の[illegible]　ほさでかへし[illegible]　[illegible]

続千羇旅　[illegible]　ほさで[illegible]　法印[illegible]

続千秋上　[illegible]　ほさで[illegible]秋の[illegible]　平久時

新拾哀傷　[illegible]　ほさで[illegible]衣[illegible]　大江広[illegible]

千載恋　[illegible]　ほさで[illegible]　藤原清輔朝臣

続古恋二　[illegible]　ほさで[illegible]　新院弁内侍

続後撰羇旅　[illegible]　ほさで[illegible]　前中納言匡房

新拾羇旅　[illegible]　ほさで[illegible]　藤原宗秀

続古恋　[illegible]山[illegible]　ほさで[illegible]　皇太后宮[illegible]

玉葉秋上　[illegible]　ほさで[illegible]　式部卿[illegible]親

拾玉集六　[illegible]　ほさで[illegible]　藤原宗泰

続古雑中　[illegible]　ほさでしも袖[illegible]　前中納言定家

新勅恋　[illegible]　ほさでも[illegible]　六条入道太政大臣

新千秋下　[illegible]袖の[illegible]　ほさで[illegible]　実[illegible]

拾玉集五　[illegible]　ほさで[illegible]　藤原宗泰

続拾恋六　[illegible]　ほさでしや[illegible]　権中納言公雄

玉葉雑二　[illegible]　ほしわびぬ[illegible]　前中納言定家

新葉雑上　[illegible]　ほし[illegible]　後村上院[illegible]

玉葉秋下　冬まちて[illegible]菊を[illegible]上の　ほのかにみえし[illegible]　従三条院[illegible]

新拾冬　久かたの月の[illegible]　ほのしらむ[illegible]　道命法師

拾玉集四　秋の夜の月に心の[illegible]　ほのともしらて[illegible]ん

風雅春上　[illegible]　ほの[illegible]雲の上人　法性寺入道前関白太政大臣

続千秋下　山川の水のみなかみ[illegible]　ほのかにみゆる菊の花　皇太后宮大夫俊成

新千冬　[illegible]　ほのかなる[illegible]ひかけ　三条入道前太政大臣

山家集下　[illegible]　ほの[illegible]の袖

拾玉集二　[illegible]　ほの[illegible]の宿

新後拾秋下　月の[illegible]　ほの[illegible]しも　よみ人しらす

拾遺雑上　宮の海に雲の浪まの月の舟　ほの[illegible]

拾玉集四　[illegible]　ほの[illegible]

新続神祇　[illegible]　ほの[illegible]　権大納言[illegible]

新千秋上　天の原[illegible]　ほの[illegible]　大納言経信

拾遺愚草上　[illegible]　ほの[illegible]

拾遺愚員外下　[illegible]　ほの[illegible]

拾遺愚草下　[illegible]　ほの[illegible]

拾玉集七　[illegible]　ほの[illegible]

拾遺愚員外上　冬の来て[illegible]吹風に　ほの[illegible]

新拾冬　しくれつる秋の名残の露[illegible]に　ほしあへぬ袖は時雨[illegible]　一條[illegible]大臣

新古恋一　[illegible]　ほしあへぬ袖[illegible]　摂政太政大臣

同二　恋をのみすまの浦人藻塩たれ　ほしあへぬ袖のはてをしらはや　摂政太政大臣

続後拾哀傷　露の[illegible]秋のなかの衣　ほしあへぬ袖もまた時雨[illegible]　院御製

玉葉恋四　天の川[illegible]　ほし[illegible]袖をみよとや　前右近大将[illegible]

新古秋上　年をへて[illegible]池の[illegible]　ほしあひのかけも[illegible]　権大納言長家

新拾秋上　九重の[illegible]　ほしあひの[illegible]　入道二品親王法守

玉葉雑一　晴ゆくかたより[illegible]　ほしみえし[illegible]　従二位[illegible]

壬生二集中　ともしする[illegible]　ほせし袖と[illegible]

新千恋二　磯菜つむたらのあまの[illegible]　ほし[illegible]袖はありやと　法橋顕昭

新後拾恋　伊勢のあまの塩やき衣[illegible]　ほし[illegible]月の比　津守国基

同春上　佐保姫の霞の衣[illegible]　ほし[illegible]天のかく山　権中納言為重

千載恋三　[illegible]　ほし[illegible]　前参議[illegible]

拾遺愚草中　民の戸の[illegible]　ほしや[illegible]

新勅恋　[illegible]　ほしやるらん[illegible]川の里　前関白

拾玉集六　いつとても[illegible]　ほしも[illegible]

山家集下　塩風に[illegible]　ほしも[illegible]

玉葉秋上　小山田の稲葉[illegible]吹風に　ほ[illegible]　入道前太政大臣

拾遺愚草上　難波かた[illegible]の[illegible]　[illegible]する

玉葉秋上　秋山の峰のかたえの村すすき　すゑこすほとの松風そふく　入道前太政大臣

同雑四　後のよの[illegible]ふかきかひなき身のうへに　袖もあつさ夏原の稚　式乾門院御匣

新後撰羇旅　もろともに志のふの山の旅衣　かすみも[illegible]山の下露　順徳院御製

壬生二中　夜半にふく[illegible]のさえくれ　かすかなりやまの[illegible]山里

千載恋三　うき事の[illegible]に[illegible]　[illegible]　寂昭法師

へ

後撰雑三　ぬきとめぬ[illegible]　へ[illegible]枝をまつ[illegible]　[illegible]

新千雑上　まてしはし[illegible]　へよ[illegible]雁[illegible]　道因法師

古今物名　[illegible]山[illegible]なく[illegible]　へ[illegible]さと[illegible]そ[illegible]　つらゆき

拾遺雑秋　[illegible]山[illegible]なく[illegible]　へまほに秋をまつ人[illegible]　つらゆき

千載神祇　[illegible]の[illegible]く　へぬ[illegible]路[illegible]まもます　大納言堂季

拾遺自外下　[illegible]も[illegible]ぬ　へ[illegible]の[illegible]　[illegible]

新千雑上　山の[illegible]も[illegible]　へ[illegible]行[illegible]ひらん　前大納言實教

風雅恋四　[illegible]そ　へ[illegible]のちま[illegible]　永福門院

新後拾恋二　[illegible]また　へ[illegible]山[illegible]も　権大僧都[illegible]

拾遺恋上　[illegible]こめさく　へ[illegible]まへん　右近大将師良

新拾秋下　[illegible]ゆく[illegible]　へ[illegible]上[illegible]らん　権大納言具氏

新葉羇旅　[illegible]　へ[illegible]なりん　[illegible]

拾玉集三　[illegible]むらむ　へ[illegible]風　[illegible]

金葉春　[illegible]　へ[illegible]かりね　[illegible]

続後撰恋三　[illegible]山[illegible]　へ[illegible]の中に[illegible]つ　[illegible]

新千載二　山かげのあさきながれにかげあれど　ころもなれ……　[illegible]

続後拾冬　難波かた浦よりとほくなる……　ころもなれぬ……　宰相典侍

新拾遺二　いつまても余所にのみして……　ころもなれぬ……　鴨祐夏

続古今一　かきくもり……　ころもなれぬ……　曽祢好忠

新後拾遺四　今はゆく……月日さへ　ころもなれぬ……　今上御製

新後撰二　……　ころもなれぬ……　中務卿……

同二　……海士の……　ころもなれぬ……　太宰権帥為経

新後拾雑春　咲かかる……　ころもなれぬ……　寂蓮法師

続後撰雑三　……世の山の……　ころもなれぬ……　橘重房

新千載　郭公伊駒の山……　ころもなれぬ……　[illegible]

千載尺教　月影の……　ころもなれぬ……　光明峯寺入道前摂政左大臣

続千載中　いかにせん……世の……　ころもなれぬ……　前参議……

壬生二百中　たとへつつ……　ころもなれぬ……　源兼氏朝臣

拾遺　月かけは……世の秋……　ころもなれぬ……　[illegible]

山家集上　帰るさの……　ころもなれぬ……　[illegible]

続千載四　山かけの……　ころもなれぬ……　従三位行能

新拾遺四　かさねても……衣　ころもなれぬ……　遊義門院

伊勢物語　蘆屋の里は……　ころもせまくや……　[illegible]

新勅撰二　[illegible]　ころもせまくや……　為道朝臣

新千載三　……月日は……　ころもせまくや……　度会行清

新葉集四　……中山中……　ころもせまくや……　小野宮……

続後撰三　……　ころもそでさへ……　前大納言為家

新千載上　……山かけの……　ころもそで……　[illegible]

続千載四　……八年月を　ころもそでぬる……　前大納言……

新拾秋上　……秋までも　ころもそでぬる……　法印定為

続後拾春上　……海の……　ころもそでぬる……　菅原為徳

新後雑中　……　ころもそでぬれ……　[illegible]

拾遺集上　……山を……　ころもそで……　前中納言資実

続拾秋上　……秋の……　ころもそで……山の月　[illegible]

拾玉集三　……山路……　ころもそで年の……　[illegible]

推本　山風小霜……　ころもそで……　平親時

続千載四　……入月の　ころもそで……　[illegible]

壬生二百上　……　ころもそで……冬の……　弾正尹邦省親王

新拾遺下　山ひめの……袖や……　ころもそでもちて……　[illegible]

続古神祇　熊野……　[illegible]　太上天皇……

拾遺雑上　君かゝる風やよそにも浪の声ハ　へたてぬ夜半の　まくらなる　中務